

# ナス ‘サラダ紫’ 露地 夏秋作型における 仕立て法の違いによる 収量及び着果特性



多様な消費ニーズに対応し、地域特産化を図るため、神奈川県育成の生食用ナス ‘サラダ紫’ の栽培条件について検討しました。

‘サラダ紫’ は5月上旬定植の露地夏秋栽培では、U字3本仕立、U字4本仕立、垂直3本仕立のどの仕立て方でも収穫量は同様で、総収量13t/10a、上果収量9t/10a収穫することができます。

慣行のU字3本仕立では植物体の下位(0-80cm)での切戻し(側枝切断痕)が約70%占めており、U字4本仕立てや垂直仕立の55%と比べて下位に多いことがわかりました。

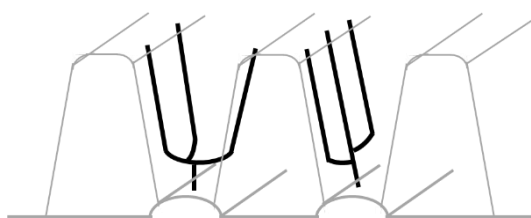


図1 U字仕立て(左)と垂直仕立て(右)  
U字仕立ては上図のように露地キュウリ支柱を用いて株の枝を逆U字になるように両側の支柱に枝を振り分ける方法。垂直仕立ては支柱に沿って支柱の列の平行方向に枝を仕立てる方法で別名一文字仕立て・垣根仕立て

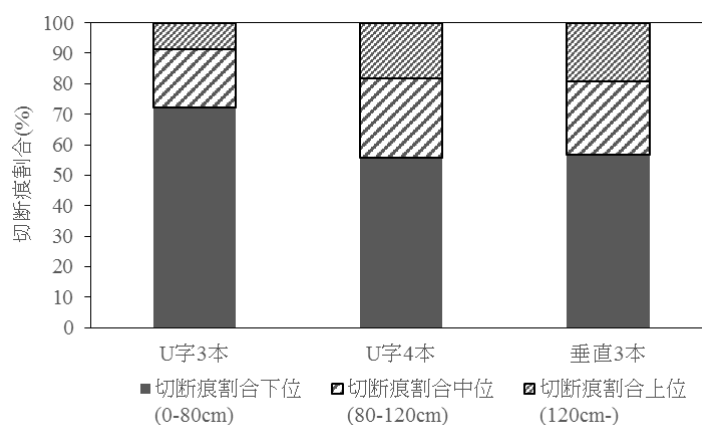


図2 露地夏秋作型における ‘サラダ紫’ の仕立て方別の主枝部位別の切断痕割合